

# 子どもと女性の健康相談室

30



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター教授  
横山 浩之氏

今回は話題を変えて、子どもの行動異常に対する薬物療法のことをお伝えします。文部科学省の調べによると、暴力行為やいじめなどの行動異常を示す子どもが増加しているそうです。特に小学校低学年での増加が際立っているそうです。周りも困ってしまうような行動異常があると、病院に行っても薬をもらってきてもと言われたりするようですが、暴力行為を治す薬剤はありません。こういったところ、子ども

の行動異常に対する薬物療法のことをお伝えします。文部科学省の調べによると、暴力行為やいじめなどの行動異常を示す子どもが増加しているそうです。特に小学校低学年での増加が際立っているそうです。周りも困ってしまうような行動異常があると、病院に行っても薬をもらってきてもと言われたりするようですが、暴力行為を治す薬剤はありません。こういったところ、子ども

での治療も積極的に進むようになります。その背景には、技術の進歩により薬剤がどのように効果を上げるかが分かってくることもあげられます。例えば、自分の目を突いてしまうといった自傷行為があるため、ぽーっとさせておくしか手がないので薬物を使うといった具合です。

する報告も数多く出され、メチルフェニデートなどのAD/H D治療薬が脳の発達を促す作用があるのではと言われてきています。これらの報告を受けて米国小児科学会は二〇一一年のAD/H Dガイドラインで、四歳から心理的介入を開始し、無効な場合には薬物

# 偏見なくし自立促す

も困ってしまうような行動異常があると、病院に行っても薬をもらってきてもと言われたりするようですが、暴力行為を治す薬剤はありません。こういったところ、子ども

突いてしまうといった自傷行為があるため、ぽーっとさせておくしか手がないので薬物を使うといった具合です。

注意欠陥多動性障害(AD/H D)は、興味がないことに注意を向けることが困難な不注意症

思考や創造性を担う前頭前野にドパミンやノルアドレナリンを運ぶ投射線

療法を行うことも視野に入れるように提言しています。

ですが、暴力行為を治す薬剤はありません。こういったところ、子ども

一九九〇年代半ばから状況が大きく変わり、小児での安全性試験や小児

状態、あるいは、悪いと分かっているにもかかわらず、やってしまっている状態、あるいは、悪いと分かっているにもかかわらず、やってしまっている状態

ルフェニデートは足りな

異常に対する薬物療法は、少しずつ進歩しています。先に述べたような偏見をなくし、子どもの自立につながる治療をしていきたいと思

療法への偏見が見える気

一九九〇年代半ばから状況が大きく変わり、小児での安全性試験や小児

状態、あるいは、悪いと分かっているにもかかわらず、やってしまっている状態、あるいは、悪いと分かっているにもかかわらず、やってしまっている状態

ルフェニデートは足りな

異常に対する薬物療法は、少しずつ進歩しています。先に述べたような偏見をなくし、子どもの自立につながる治療をしていきたいと思

## 行動異常と薬物療法

がある病気です。動物実験から、AD/H

期診断して薬物療法を行うことで投射線維が増加

次回10月15日掲載